



バプテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第214号

発行責任者
 社会福祉法人 バプテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害施設 久山療育園
 重症児者医療療育センター
 理事長 宮崎信義
 編集責任者 鍋山泰三
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
 ☎(092)976-2281
 FAX (092)976-2172

「新年のご挨拶」

理事長 宮崎信義

新しい年が開かれました。「重症心身障害児(者)と共に」生かされている久山療育園重症児者医療療育センターでも、2024年という時を生かして前に進みたいと願っています。しかし、どうしても新型コロナウイルス感染症の蔓延が頭から離れません。2019年末に発生し、日本では2020年4月7日にパンデミック(世界的流行)に伴う「緊急事態宣言」(1回目)が7都府県に発令(第1波)されてから4年目に入り未だに感染が終息していません。そのような時でも、滅ぼされず、打ち倒されないと神様への信頼を抱いて前に進みたいと願っています。2024年度からは、新しく策定された「事業継続計画(BCP)」に従って、堅実な感染対策と共に大災害を想定した対策を実践して参りたいと思います。

聖書に導かれて「新しくされて生きる」
 昨年11月の火曜集会(聖書集会)で、「新しくされて生きる」という主題でお勧めさせて頂きました。その中でコリントの信徒への手紙二5章17節「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新し

く創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」を引用致しました。この新しい人は、肉(この世の支配的な考え方)によらず霊的にキリストに出会った者で、キリストによつて赦されキリストの愛のうちに生きる者であります。また新しい人は、地上では罪と死に捉われていますが、イエス・キリストにある時、それはもはや私たちを支配することはないことが約束されています。夜は去り朝が巡って来るように苦難や危機があっても希望を失わず前に進むことが勧められています。

またコリントの信徒への手紙二4章18節は、久山療育園の創立聖句です。聖書が示すことは、まことに不思議な意味を指し示しています。御言葉によると、人の生き甲斐や希望も、能力や所有するものに寄らないこと、即ち「見えないもの」にあることが示されています。世界や人間存在の根幹として、「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに見えます。見えるものは過ぎ去りますが見えないものは永遠に存続するからです。」という使徒パウロの言葉は、聖句としてこれからもずっと覚えられていくことでしょうか。

2024年の課題…BCP(事業継続計画)策定
 2023年度以内に「事業継続計画(BCP)」の策定が義務化されました。BCP策定会議から「BCP策定の構想」について以下のように提示されました。全ての障害福祉サービス等事業

おわりに
 聖書は本の中の本と言われます。日毎に神の言葉に触れる、そこにいて神の御霊が働いてくださり、新生が始まります。教会も、そして久山療育園も人の魂、心に深く語りかけられる場所でもあります。魂が新鮮であると人は老いないものです。そして、いつも上を向いて神に希望をもって生きる事ができます。2024年の年頭に当たって、ぜひそのような日ごとに私達の日常が新しくなる道を求めて頂きたいと心から願います。

者を対象に、災害などの際の業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練(シミュレーション)の実施等が義務化され、経過措置期間として2年あまりの期間が設けられており2024年4月までにBCPの策定をしなければなりません。当センターにおいても、「BCP策定の構想」という議題で、スタートアップミーティングを、センター長を中心に2回実施してきました。その上で、今後のBCP策定に向けて、コアメンバーの策定、役割分担を行いたいと思います。このメンバーを中心に、まずは「地震(震度5強以上)」における指揮命令・情報収集などの組織系統を明らかにすること、災害時における院内・院外対応の役割の明確化について今後話し合いの機会を持ちます。

理念と展望

「重症児者と共に」持続可能な事業体として

理事長 宮崎信義

2024年3月を期限として「事業継続計画（BCP）」が全ての障害福祉サービス等事業者を対象に策定が義務付けられています。その骨子は、「大規模災害への対応計画と研修」、「新型コロナウイルス感染症に代表される感染症の蔓延対策」等です。久山療育園重症児者医療療育センターでも、センター長が主導するBCP策定会議から「BCP策定の構想」について原則と具体的な策定を立案する途上にあります。私は、創立理念の観点からBCP（事業継続計画）を考察致したいと思います。

「設立の目的」から

BCP（事業継続計画）においても、在宅及び入所重症児者の必要に聴く診療福祉計画と実践に心をとどめたいと願います。それは「病棟」や「通所・外来」、「重症者ホームひさやま」の中だけに止まらず、新しい福祉社会（福祉共同体）づくりの拠点であることが結実し、福祉共同体の実現、地域医療連携へと進められていくことを視野に置きたいと願います。

「運営基本方針」から

「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならぬ」という理念か

ら、ミットレーベン・ネットワークや保護者会、地域、諸教会との協働によって、BCP（事業継続計画）を共有したいと思います。

管理会議で述べた事業方針から

2023年度の管理会議で毎月理事長として事業計画の要点や施設内の一致を求めて参りました。以下に経時的な内容についてまとめました。2024年の展望を考える基礎としたいと思います。

(1) 「管理会議」と「経営会議」を車の両輪とした運営を：2023年5月11日の会計事務所の監査報告書から収支均衡を図ることが指摘されました。2017年度会計以来の赤字決算（年間約1億円超）が明らかに、収支均衡を図る努力がなされています。収支均衡は、創立理念に基づく重症心身障害児（者）に対する医療福祉を保持し、職員処遇を維持し、今後の将来計画を建てていく基盤となるものです。「今」の在り方がその基盤を成り立たせません。

(2) 第6回火曜集会運営会議から：2023年3月28日

(火)に開催され、①提言「久山療育園の創立理念から『キリストの福音を土台として』」、②創立理念の確認と実践：『キリストの福音を土台として』を継続、③重症心身障害児（者）施策と福祉、「生命の尊厳」等が述べられました。

(3) ミットレーベン・ネットワークの働きを覚えて：8月11日に、暑さの中を全日ワークキャンプ活動を実施されました。これまでも半世紀以上に渡って久山療育園の立ち上げからボランティア活動・街頭募金などの活動を継続して来られました。新型コロナウイルス感染症で活動を風化させないという意思を感じ感謝します。

(4) 平和の共同体からの発信：1945年8月15日の終戦記念日を風化させないために：ロシアのウクライナ侵攻は「武力による現状変更」を押し通す行為で、それは小さく弱くされた人々（障害者、幼児、高齢者）の生きる場を奪おうとするものです。

おわりに

災害や感染蔓延は予測が尽きないことが多いと思いますが、これまでも「重症心身障害児（者）」と共に「生命と暮らしを守る」理念の継続として、久山療育園の創立理念を基軸として、BCPの策定時に十分な吟味を進めて行きたいと思えます。



病気のからだから人の
第18回

「新型コロナウイルスmRNAワクチン、ノーベル賞に輝く」

センター長/理事 岩 永 知 秋

■メッセンジャーRNAワクチン

最近の日本は、先進国の中で給与水準が20年以上上がらない国、インフレにもかかわらず異次元の金融緩和を続けられない国、ジェンダーギャップ世界116位、など元気がない話題ばかりです。科学や医学の分野でも落ち込みはひどく、今回のCOVID-19に対しても国産ワクチンがやっとひとつ市場に出たところです。これにはいろいろな要因があり、国(厚労省)も企業も簡単には乗り越えることができなかったようです。これに比較して欧米がさすがだなと思わせるものの一つが、このメッセンジャーRNAワクチンの開発です。日本でも有名になったこのワクチンは、きわめて迅速なワクチンの製造やノーベル賞受賞などこれまでの常識を覆すことでの連続でした。

■新型コロナウイルス感染症との闘い

2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、感染症を克服したと思っていた人類を奈落の底に落としました。SARSやMERSなどの地域的な流行はあっても、地球規模の危険な感染症の流行(パンデミック)など、すでに過去の遺物とも考えられていたのです。COVID-19の中でも、とりわけデルタ株と呼ばれる変異株は致死率が高く、日本でも志村けんさんや岡江久美子さんなどの著名人が亡くなられるなど、わが国にも大きな脅威を与えました。当初は感染したところでこれに有効に対抗する薬剤もまだ見つかっておらず、まして感染の予防や重症化の予防に効果のある手立てはありませんでした。すなわち、昔のペストの時代と変わらない物理的予防策(マスク、手洗い、換気、三密の防止など)しかなかったのです。しかし、メッセン

ジャーRNAワクチンが使用可能になると、重症化の防止や感染の予防に対して、私たち人類は初めて強力な武器を得ました。まさにメッセンジャーRNAワクチンがゲームチェンジャーと呼ばれる所以です。

■驚くべき速さで使用可能に

一般的に新しいワクチン開発には10年くらいかかるのが常識とされてきましたが、このコロナワクチンは製造・使用までに1年もかかりませんでした。開発と製造を請け負ったバイオテックは「光速プロジェクト」のネーミングのもと、設計から完成まで9か月で達成しました。これを成し遂げた人たちは、現代を映す鏡、多様性に富んだ人たちでした。発明者のカリコ博士(女性)はハンガリーから米国への移民、その実用化に動いたドイツのバイオテック社のCEOはトルコからの移民二世であるシャヒン夫妻、バイオテックと共同したファイザー社(米国)のCEOブーラ氏はギリシアからの移民、ワクチン担当のジャンセン氏は東ドイツからの移民、また同じくmRNAワクチンを開発したモデルナ社(米国)の創

設者アフェヤン氏はベイルト生まれのアルメニア人だそうです。多様性を包摂できる懐の深さと、移民の持つ才能とエネルギーを生かすことができる欧米の強みと言えるでしょう。しかもバイオテック社もモデルナ社も2010年より少し前にできたベンチャー企業(2010年時点でバイオテック1300人、モデルナ830人)であり、このワクチンができるまで臨床で使用できたくりがらないとのことですから、本当に驚きです(黒木登志夫著、変異ウイルスとの闘いーコロナ治療薬とワクチン、中公新書)。

■カタリン・カリコ博士

それとともにカリコ博士は本当にすごい女性ですね。研究環境のため母国ハンガリーから米国に移住せざるを得なくなりしましたが、当時は100ドルまでしか持ち出しが許可されていませんでした。そこで娘さんのテイベアのぬいぐるみに、ひそかに1000ドルを入れて渡米したのは有名な話です。米国で何とか大学に職を見つけても、何度も研究を否定されました。世界中から移民を含め多様な人々を受け入れる米国でも、

そのようなことがあるのかと驚きます。しかし持ち前の研究好きに支えられたガッツの人には、「RNAを使えば必ずや人類の役にたてることのできる」と周囲の人に説いて回る「RNAハスラー(押し売り)」の異名が付いたそうです。そのようなとき、ドリュイー・ワイスマン博士と出会ったのは大学研究室共用のコピー機の前でした。ワイスマン博士はHIVに対するワクチン作成を試みながらうまくいかなくって悩んでいたそうですが、カリコ博士からRNAの研究を共同して行うよう誘われました。そこからメッセンジャーRNAワクチンの発明が始まるのです。余談ですが、カリコ博士の娘さんはオリピックのボート競技で、大会連続の金メダルを獲得したアスリートでした。カリコ博士はこのワクチンの発明まで、オリピック金メダリストの母親としてしか知られていませんでした。

■メッセンジャーRNAワクチンが生まれるまで

アメリカの大学では彼女の研究は評価されなかったのですが、カリコ博士のRNAの研究に目をとめたのがドイツのビオンテックという新しい会社でした。副社長として迎えられたカリコ博士は降ってわいたようなCOVID-19パンデミックに対して、メッセンジャーRNAワクチンが持つ副反応を抑え、かつ人体ですぐさま分解されるRNAの弱点を改善しました。これにより臨床で使えるワクチンが完成したのです。その結果、通常のワクチン、たとえばインフルエンザワクチンなどの有効率はせいぜい50-60%どまりなのですが、このメッセンジャーRNAワクチンの治験（ワクチンを使った人たちと使わなかった人たちで、その後COVID-19に罹患した率、重症化した率を比較しました）では90%を超える、驚くべき有効率がたたき出されました。

■ワクチン後のCOVID-19

ウイルスの特徴として、ウイルス自体が生き残るためにワクチンやくすりから逃避を図る現象があります。姿かた

ちを変える「変異」（シフトと呼びます）と呼ばれるものです。このCOVID-19のウイルスも例外ではなく、皆さんご存じのようにアルファ株から始まり、毒性の高いデルタ株などを経て、現在はオミクロン株へと変異を遂げています。この株の名前はギリシア語に由来します。オミクロン株は感染力が強くなりましたが、重症化リスクはかなり減っています。デルタ株とオミクロン株とは変異の系統樹ではかなり離れた位置にあります。最近の変異株はオミクロン株の中の小変異（ドリフトと呼ばれます）です。BA.1から2, 3, 4, 5を経てXBB.1.5, EG.5（エリス）、ピロラへと、オミクロン株の中で姿を変えています。感染力はドリフトのたびに少しずつ増えますが、重症化リスクは低いまま変わっていません。

■ノーベル賞授与

2023年のノーベル生理学賞はカタリン・カリコ博士とドリユー・ワイスマン博士の2人に贈られました。彼女は「私をヒーローという人がいるが、本当のヒーローは医療現場や消防、救急、交

通、清掃などウィズ・コロナ生活を支えている人たちだ。」ときわめて謙虚な発言をしています。また、このような優れた研究が今後も行われるための条件をメディアから質問された際には、「もっとコピー機を増やしたら。」とジョークを飛ばしました。ワイスマン博士とのコピー機の前の出合いを踏まえたものです。ノーベル賞が与えられる科学技術、医学・生理学上の功績には、通常10年単位の評価期間が置かれるのですが、このメッセンジャーRNAワクチンは、その極めて高い人類への貢献度が評価されて、発明から程なく授与に至った点も特筆するに値します。

■ノーベル賞余談

私は前職を定年退任した直後、北欧を旅行する機会に恵まれました。ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマークを巡るツアーでしたが、スウェーデンのストックホルムに着くと自由時間があり、ノーベル博物館を訪れました。この博物館の小さなカフェでコーヒーとケーキをいただきましたが、ほとんどセルフ方式の狭い店内で、大した飾り気もないテーブルと

椅子が素っ気なく置いてありました。ノーベル賞受賞者はこのカフェにいくつもある黒っぽい椅子の裏に、白色のインクでサインを残すのが慣例となつています。一つの椅子の裏に、いろいろな年代の10人ほどの名前が直筆で署名されていました。私と家内で椅子をひっくり返しながらい

ろんなサインを確かめていると、その時から2年前に文学賞を受賞したカズオ・イシグロ（英国）のサインが見つかりました。この人は長崎で生まれ、幼少期を長崎で過ごしたあと英国に渡った文学者であり、私たち夫婦と同郷の誇るべき偉人ということに感慨深いものがありました。ちなみに「オートプファジー」（細胞の中で物質を分解・輸送するシステム）でノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典先生（福岡市出身）は、前年に同賞を受賞された大村智先生（イベルメクチンの発見と臨床への応用）と同じ椅子にサインをされたそうです。

■科学技術立国日本は危うい

物理学、化学、生命科学、医学などにおいてこれまで日本からは多くのノーベル賞受賞者が生まれました。しかし、

科学分野でノーベル賞級の研究や研究者は、今後激減するのではないかと懸念されています。国の研究への補助が年々減少しており、かつすぐに結果が出るような研究に重点的に研究費補助が偏るようになったこと、また研究者の身分保障が短く、息の長い研究が困難であることなどが、その理由として挙げられます。どのような成果が出るかわからず、誰も手を付けなかったような研究にこそ、革新的、革命的な研究へとつながる可能性があるのですが、このような研究へのサポートが国には欠如しています。これも日本が衰退する姿の一つなのではないでしょうか。アジアの片隅（西洋からは極東などと呼ばれてきました）にある島国日本は、数々の素晴らしい伝統を持つ国です。しかし、エネルギーなどの天然資源には恵まれていないのですから、教育や研究、デジタル化などの知的財産を育てる努力が、今後科学技術立国を目指す日本の運命を決定するのではないでしようか。

「第44回日本重症心身障害福祉協会 西日本施設協議会総会報告」

センター長 岩 永知 秋

2023年11月16日(木)、17日(金)の2日間にわたり、第44回西日本施設協議会総会が九州大学医学部百年講堂で開催されました。今回は九州北部ブロック福岡県の当番であり、私ども久山療育園と、北九州市立総合療育センター足立園、柳川療育センター、障がい児者医療生活支援ホーム「虹の家」の4施設が開催を担当しました。準備に当たり、2022年に担当された東大寺福祉療育病院での企画運営を学ぶべく、前回大会に久山療育園から宮崎理事長以下スタッフ7名が参加しました。その後開催までに4施設合同委員会を8回、そのほか院内での打ち合わせを適宜数回開き、2回の会場下見など万全の準備を行いました。

抄録集、資料集、プロモーションスライド(主催4施設を紹介する内容など)の収集など、予定したスケジュールで進めることができ、安定した準備、運営の礎となりました。今回の協議会総会の運営においては、この4施設の関係者が一致協力して準備を進めていただいたことが何よりも大きかった

ものと思います。改めて感謝申し上げます。また、運営を手伝っていただいた名鉄観光サービス株式会社、準備段階から丁寧にご案内いただいた九大医学部百年講堂事務室の皆さんに感謝いたします。

さて、今回の総会の主題としては「重症児(者)支援の目指す方向―伴走する医療と療育の課題」を設定し、特別講演、シンポジウムなどのプログラムを構成しました。

11月16日、第一日目の開会式では、児玉和夫日本重症心身障害福祉協会理事長、富和清隆西日本施設協議会会長のご挨拶に続いて、担当施設代表として当園の宮崎信義理事長がご挨拶を申し上げます。また、来賓として服部誠太郎福岡県知事に多忙な公務の中ご来場いただき、本協議会への期待と福岡県の障がい医療に関する姿勢などについてご挨拶をいただきました。その後恒例にしたがって富和議長、石橋大海副議長により総会が開かれた後、こども家庭庁支援局障害児支援課の移行支援専門官 岡崎俊彦氏より、「障害児支援施策の動向について」というタイトルでお話をいただきました。



令和5年4月にこども家庭庁が発足し、障害児支援、医療的ケア児の支援を重要事項とする「こども大綱」の策定中であること、令和6年4月施行の改正児童福祉法を準備・検討していること、また、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に向け準備中であること、などが報告されました。

特別講演Ⅰは国立病院機構肥前精神医療センターの統括診療部長 會田千重先生から「行動障害を伴う重症心身障害

児(者)の理解と対応」と題してお話をいただきました。



りました。久山療育園でも入所者の平均年齢が48歳となり、中高年齢とともに種々の合併症が発生しています。また、障害自体の重症化に伴う医療・療育の課題も見えてきました。このような状況は全国の重症心身障害施設においても共通する問題であり、ここで議論の俎上に載せる意義は極めて大きいものと考えます。

九州大学大学院消化器・総合外科併任講師の中西良太先生からは「中高年齢における重症心身障害医療の進歩と限界」について発表がありました。大腸癌手術の3症例について、手術の適応と実際、術後経過が詳細に説明された後、このような手術に際して、重症心身障害施設との患者情報の共有や大腸癌発見のための便潜血検査の重要性を強調されました。西南女学院大学保健福祉学部教授の笹月桃子先生からは「重症心身障害医療と緩和ケアの交差点」と題して発表がありました。重症心身障害児(者)の余命が定まった時、利用者の個別の最善や自律をどう支えるかについて、「人生会議」の議論などを踏まえて関係者間で議論を行うこと、そして苦痛の緩和、意思決定支援、家族会議の3本柱を中心に実践してい

「動く重症心身障害児(者)」として施設整備に関する歴史的経緯が述べられ、そのうえで長期入所による最終的なセーフティネットとしての施設あり方から、地域へとつなぐ中間施設・中核医療機関への変容が図られつつあることが指摘されました。また、行動障害を伴う重症心身障害児(者)の特性への十分な理解が肝要であり、一般の重症心身障害施設にあっては行動障害への理解が進むことを期待されることのご発言でした。

シンポジウムでは主題を「中高年齢化する重症心身障害児者の今日的課題」として、5名のシンポジストから発表があ

り、

くことが重要であると説明されました。久山療育園重症児者医療療育センター療育主任の古賀クミさんからは「年長化に対応した療育の現状」というテーマで発表がありました。重症心身障害児者)の療育にあつては本人のライフステージごとにその内容が変化していくものであり、一人一人の個別支援の目標や支援内容について多職種間で協議することが重要であると発表されました。福岡県福祉労働部障がい福祉課課長の花田恭介氏からは「県における医療的ケア児者への支援について」という題で発表がなされました。令和6年4月に福岡県ではこども療育センター「新光園内」に「医療的ケア児支援センター」が開設されたことが紹介されました。また、在宅の医療的ケア児を対象とする医療型短期入所を、事業所が不足する地域に関して、医療機関や介護老人保健施設へと拡大する事業に取り組んでいることが報告されました。全国重症心身障害児者)を守る会福岡県支部支部長の和多正景氏からは「保護者・後見人の立場から」重症心身障害児者の家族の思いと願い」と題して発表がありました。重症心身障害児(者)の保護者としてのご自分

の経験談を淡々とお話しされたうえで、医療従事者に対してきめ細かな対応と保護者への丁寧な説明を行うことにより、保護者の不安を取り除くことを切望されました。最後に作家水上勉氏の、障害を持つて生まれたわが子に関する勉氏と奥様との対話を披露され、障害を持つ子の保護者の思いが参加者の胸に切々と迫りました。



同日に行われた交流会は百年講堂の中ホールを使用し、飲食はケータリングを用意しました。想定を超える160名以上の事前参加登録があり、4年ぶりの交流に花が咲きました。コロナ禍におけるリモートWEB開催では

物足りないものを感じていた人も多いものと思われ、Zoomで語り合う機会がやっと得られたことは今回開催の大きな収穫の一つであったと思います。交流会の飲食では、博多らしい料理の提供をいただいたリーセントホテルに御礼申し上げます。

11月17日、総会2日目は特別講演Ⅱで幕を開けました。認定NPO法人理事長で穂つぶこども在宅&心身クリニック院長の島津智之先生から「重症心身障害施設におけるBCP(事業継続計画)」のテーマで発表がありました。



2016年4月、国立病院機構熊本再春医療センターにおいて体験された熊本地震について紹介されました。そのうえ

でこのような災害に対するBCPの観点ならびに障害児者を守る立場から、普段から地域との密接なネットワーク構築が何よりも大切であり、種々の医療サービスを駆使して複合的なシステムづくりを行うことが、平時においても障害児者の生活の質を向上させるのだと強調されました。

その後全体会に移り、日本重症心身障害福祉協会会長の児玉和夫氏から「日本重症心身障害福祉協会報告がありました。ますます複雑化する重症心身障害医療について、良質な職員の確保、施設設備の充実、高額

な医療機器の導入のため、診療報酬の引き上げや国からの補助・支援が不可欠であるとのご発表がありました。沖縄南部療育医療センター院長の當山潤先生からは「施設内感染症アンケート報告」がなされました。新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査が紹介され、多くの施設が院内クラスターを経験したこと、その際に各施設がいろいろ工夫と努力により重症化を防いだことなどが報告されました。さらに、COVID-19以外の感染症状況、とりわけ薬剤耐性菌に関するデータとその対策について報告がありました。な

お、昨年までに報告されてきた骨折に関するアンケート調査報告は、今年から全日本の協議会で報告されることとなり、本協議会総会では省かれました。その後閉会式が行われ、次回開催施設の徳島赤十字ひのみね医療療育センター園長の加藤真介先生からご挨拶をいただきました。最後に富和会長の閉会のご挨拶をいただき、無事に総会は終了となりました。本総会への参加者は事前登録で209名であり、さらに当日登録を含めると220名を超える参加者数となりました。

今回の協議会総会の主題である「重症児(者)支援の目指す方向」を伴走する医療と療育の課題」は、重症心身障害施設が置かれた現状と将来を考えるうえで、皆様と共通する課題であり、裨益するところ大であったのではないかと考えます。本総会を開催、運営するにあたり、北九州市立総合療育センター、一足立園、柳川療育センター、障がい児者医療生活支援ホーム「虹の家」、そして久山療育園重症児者医療療育センターのスタッフから多大なるご協力をいただきましたことに、担当者代表して心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

第54回公開講座について

研修研究委員長 荒金 幸

10月23日、久山療育園の交流ホールにて第54回公開講座が行われました。

今年度は、「コロナ禍における在宅支援」その時の家族の思いから今後の課題を考える」をテーマに4名の講師を迎え講演が行われました。



プログラムは以下の内容でした。

講演1：「コロナ禍における在宅支援」訪問看護ステーションの立場から、こども訪問看護ステーションいちばん星所長 山下郁代様

講演2：「コロナ禍での取り組みと課題」生活介護・シヨ



ートステイの立場から、障がい者多機能支援施設きらきら WITHTYOU 管理者 濱田三徳様
講演3：「コロナ禍での在宅支援」在宅保護者の立場から、保護者 筒井真央様
講演4：「コロナ禍におけるケアマネージメントの実際」相談支援員の立場から、相談支援センター ゆい 佐藤弘章様
また、各講演の後はシンポジウム形式で会場も交えたディスカッションの時間を設けることが出来ました。

今回のコロナ感染拡大は、この事業所においても初めての経験であり、はじめは最大限の感染対応をすることが必要でした。しかし、徐々に長く感染対応に家族のみの介護で家族は疲弊し、在宅生活を支えるにはやはり今までの医療や福祉サービスの利用は必須でした。また、コロナ禍での生活という経験では、在宅生活者よりサポートが必要な弱者の存在や問題点が浮き彫りになりました。

会場を交えたディスカッションでは、「日頃サービスに繋がっていない利用者様を、今後どのようにして普段から事業所との繋がりを持つていただくか」など平時からの取り組みの重要性や、「家族がコロナ感染になったときに、利用者がデイやショートステイを活用できるための方策はどのようなものがあるのか」などの隙間となるサービスの在り方についての情報交換が行われたり、「家族は安心できないと、利用できるサービスがあっても利用できない」や、「各事業所のみでは対応できないことも多い。サポートできる体制づくりや日ごろから顔が見える情報交換が大切」などの意見交換がなされました。

また、「各自自治体がどのように主導してどのような体制づくりを行っていくのか。」なども自治体への働きかけについても議論が行われました。



講演を引き受けてくださった講師の中には、「何も出来ていないので」とお話される方もいらっしゃいました。講演後の感想の中には「自分たちも同じで、専門職としてサポート出来なかった。お話には大変共感を覚えました」など各施設が同じような悩みを持っているのだと気づきにもなりました。

また、保護者の筒井様からは「この地域では出来て、この地域では出来ないなどの地域差があってはならない、どの家族も安心して生活出来ることを望みます」とのお言葉に、私たち各施設や各事業所において今後取り組むべき方向性を示して頂けたものと感じました。

出来ることから始め、事業所間での連携などが今後、「だれ一人取り残さない」ことに繋がっていくのではないかと考えました。

このような経験を共有でき、各講師の先生方には様々な事例をお話していただき大変良い学びの時間となりました。

参加者は、外部では福岡市や粕屋近郊から18施設34名が参加され、久山療育園のスタッフも20名ほど参加しました。それぞれのスタッフが、様々な立ち位置から自分や自分の事業所を振り返り、今後はどうのようなことを行っていくのかを考える時間となりました。今回のテーマはコロナが終息しても、次に起こるパンデミックにむけて、この経験を繋いで「だれひとり取り残さない」対応や対策が行われるための学びになったと考えます。

災害対策訓練報告

近年全国的に地震や風水害の被害が増加している中、病院や福祉施設でもそれらに対応するため2024年4月1日までにBCP(事業継続計画)の策定が義務化され、準備が求められる昨今、久山療育園では防災の取り組みとして防災委員会で毎年年間訓練計画を立て毎月訓練を実施しています。

今年度は新型コロナウイルスが5類に移行して初めて、地震を想定した「災害対策訓練」を2023年10月11日(水)に施設全体で実施致しました。

今回の訓練では、ライフラインが停止した状況を想定し、実際に10時から14時の3時間30分の間、施設全館を停電させた中で、非常用発電機を稼働させて、入所部門と通所部門の利用者・リハビリ部門の家族に協力を頂きながらの訓練となりました。

初めに、全館放送で地震の発生が放送され、各部署、自身の身の安全を確保しながら緊張の中訓練が開始されました。

対応の仕方、医療機器の非常電源への切り替え等、防災マニュアルに沿った形で前年度の反省点を踏まえながら初回の動きを確認しました。



リハビリ部門では利用者・保護者の避難誘導の訓練を、管理部門では災害対策本部の立ち上げ訓練を行い、各部署からの利用者・職員の安否状況および建物・ライフラインの被害状況の情報収集訓練を行いました。

また、大規模災害時の際は利用者の食事確保も重要になります。当センターでも利用者・職員用の非常食等の備蓄を行っています。今回もエレベーターが停止した想定の中、利用者の非常食を階段で運搬する訓練も実施しました。



加えて、職員やその家族の安否確認に関しても重要です。連絡(情報収集)手段として当センターでは、職員の協力の下、メールでの安否確認メールを導入しており、同時に訓練を行いました。

今回の訓練では「職員一人一人の災害に対する意識を高めること」、実際に大規模災害が起こった際に「スムーズな初動の対応ができるようにすること」を目的に実施しました。これを達成するにあたっては日々の訓練が重要です。

現在、予期せぬ災害が世界的にも発生しており、利用者のいのちと健康と生活の場を守るためにも久山療育園でも地域(町・区)との計画の中での協力体制が急務であり体制作りを少しずつ行っています。

今後も利用者の生活を守るため、久山療育園の職員1人1人が日々の訓練に励み、防災意識を高めて行きたいと思えます。

(防災委員長 波田 良)

2023年久山療育園クリスマス

前号でご案内しましたように、今年のクリスマスもまた、感染対策の観点から蝋燭礼拝や聖歌隊を中止せざるを得ず、12月14日(木)13時30分から、地域交流ホールにおいて、讚美歌と聖書朗読でイエス様のご降誕を祝い、宮崎理事長よりクリスマスメッセージが伝えられ、保護者会役員、理事・監事の皆さま・新入職員、そして、当日ご来園いただいたボランティアの皆さまと共にクリスマスのお祝いをすることができました。

限られた集いではありましたが、来年こそは多くの方々とマスクを外し笑顔で集える「クリスマス」を開催できることを願っています。

(クリスマス実行委員会)



通所で頑張っています

「2023年度 通所クリスマス活動」



今年のプレゼントはクリスマス仕様のハンガー♪

今年もクリスマスの時期がやってきました。今回のプレゼントはクリスマス仕様になったハンガー♪

みんなで心を込めて飾りをつけていき、メッセージカードを添えて…完成です。

12月中旬から一気に寒くなりクリスマスの飾りがどんどん増えてクリスマスムードが高まりました。

ホールへ行くと、キラキラのツリーや大きなケーキ、プレゼントなどわくわくするような空間が広がっています。皆さん思わず「ワァ〜」と笑顔になりました。

(通所 介護福祉士 平山 咲)



サンタのタペストリーとパジャリ



ツリーとともに…



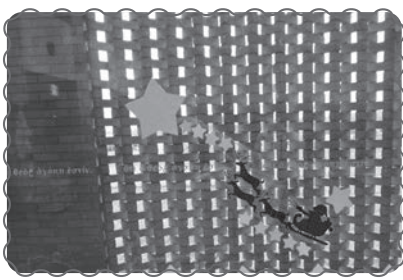
皆さんと作り上げていく大きなケーキ



とびっきりの笑顔です



メリークリスマス



第2療育室もクリスマスモードに★



雪の世界が広がります

病棟イベント

「2023年度ないうろの会」

お天気に恵まれた秋晴れの中、2023年度ないうろの会が行われました。

今年度はめぐみ棟7名、ひかり棟8名の方が主役です。

ひかり棟には新しく入会された方が1名、古希の方が1名、そして、傘寿の方が2名めぐみ棟は喜寿のお祝いの方が1名おられました。



一部の式典では虹のアーチをめぐり主役の方々がステージへ登場します。会場は暖かい拍手と笑顔に包まれました。今年のないうろの会のテーマは「尊敬」。緊張の中でもどこか誇らしげな表情でステージに立つ主役の皆さんに、観客の皆さんからの尊敬の眼差しが向けられました。



先生方からご紹介をいただき、トロフィーを受け取ります。一人一人がしっかりと受け取られる姿はこれまで生きてきた人生の重みを感じられる大切な瞬間です。

その後、写真撮影を行いました。はじけるような笑顔や緊張の笑顔、ポーズを決める方などその人らしきがあふれる素敵なお写真になりました。ないうろの会のみなさん、本当におめでとうございます。これからも元気に楽しく過ごしていきたいと思います。



(ひかり棟 保育士 山下莉奈)

「ユニバ」行かんー!

秋のイベントは UNIVERSAL STUDIOS JAPAN in HISAYAMA でした!

夏に引き続き、様々なアトラクションを楽しみました! 始まる前からチケットをもらいワクワクが止まりません☆会場では、各ブースに分かれて楽しみました。バナナをタイミングに合わせて枠に入れてポイントをゲットしたり、ボールを投げて的を倒したり! みんな、とっても楽しかったです!





最後はみんながゲットした
飴のおかげでハロウインの魔
女からのいたずらも回避する
ことができました！あゝいた
ずらされなくて良かった♪

(リハビリテーション課
主任 川上敏美)

「やってきましたクリスマス会♪」

12月13日、みんな大好きク
リスマス会が行われました！
礼拝では「おほしりがひか
る」「きよしこのよる」を皆
さんで元氣よく歌います。真
剣に礼拝を行った後はお楽し
みの第2部！

今年は何とゲストにスマ
イリングホスピタルジャパン
(SHJ)の方がやってきて
くれました♪ゲストの方が来
られるクリスマス会は4年ぶ
りなので、みなさんいつも以
上にワクワクした様子で楽し
んでおられました。

SHJの素敵なピアノ演奏
に聞き惚れたり、その音色に
合わせて身体を動かしたり…。



利用者の皆さんスタッフの
皆さんともに楽しく参加する
ことができました。もちろん
サンタさんもやってきました
よ！プレゼントをたくさんも
らって皆さんニッコニコの素
敵な笑顔♪

サンタさんありがとう！ま
た来年もまってまーす♪
(めぐみ棟 保育士
柳有似子)



重症者ホームひさやまより

「祭りひさやま」

10月15日、天気は快晴、絶好のお祭り日和に祭りひさやまに参加してきました。ホームで昼食を食べ準備をしていざ出発です。久しぶりに全員でのお出かけに車に乗り込む時からみんなワクワクです。少し肌寒いかな？と上着を着ていきましたが、会場に着くと天気の良さに加え、たくさんの人で熱気につつまれていました。会場に着くと3班に分かれて行動しました。

あちらこちらから楽しそうな音楽が流れてきたり、美味しそうな匂いが漂ってきます。

しかし、今回はただ祭りを楽しむだけではありません。大事な役割があります。それは・・・ポップコーンの売り子さんです。順番にポップコーンを売る係を回し、「ポップコーンはいかがですか」と大きな声をだしたり、手を振って



アピールしてみたり、売れたポップコーンを手渡す係だったりそれぞれが大事な役割を頑張っていました。

売り子さん以外の時間は祭りを楽しむ時間です。バスを見に行ったり、ステージで踊っている人を見たり、自衛官ブースでは缶バッジをもらって一緒に写真まで撮ってもらいました。

ボランティアさんの協力の元、楽しい時間を過ごす事が出来、たくさんの方と触れ合えるいい機会になりました。

(重症者ホーム 介護福祉士 前田宏美)

「地域の方々に支えられて」

この秋、東久原地区の運動会にご招待をいただきました。コロナも5類になり、少しずつ地域へ出かけ始めたホームにとって、ありがたいお話でした。

でも、十名の利用者が一緒に行くにはスタッフの数が足りません。あきらめるか・・・と迷ったものの、やっぱりあきらめきれず、区長さんに電話をしてみました。

「大変申し訳ないのですが・・・、地域の方にお迎えに来ていただくことはできないでしょうか？」 図々しいお願いです。すると、区長さんは「大丈夫ですよ」「何人くれば良いですか?」と快く答えてくださったのです。

おかげで私たちは、全員で運動会に参加することができました。パン食い競争への参加をお願いする際には、一人ひとりの得意な動きを伝えると、「こうすれば届くかな」「一緒に取ろうね」とそれぞれの形でパンをとることができました。周りの方からの「がんばれー」の声援にも温かいものを感じます。



玉入れやクイズ大会など最後まで参加し、地域の方と一緒に歩く帰り道は、なんだか行きとは違って見えました。恐る恐る車いすを押していたその手はそのままに、皆さんの表情には余裕が感じられ、「楽しかったね」「たくさん声が出たね」などお一人お一人との会話を楽しまれました。



車いす操作に必要なのは、技術よりも細やかな配慮です。ゆっくりゆっくり相手のことを気遣いながら、自然と出てくるその言葉にこの時間を共有した意味を感じることができました。

東久原地区の皆さん、本当にありがとうございました。また、参加させてください。(重症者ホーム 療育主任 陣内晶子)



新入職員の皆さん

2023年度春以降に新しい仲間
9名をお迎えしました。
感謝とともにご紹介します。

(入職日・五十音順)



- ① 関 友梨亜 (療育員/通所)
- ② 関わる全てのの人に感謝の気持ちをしっかりと持ち歩みたいですね。
- ③ 長所.. チャレンジ精神旺盛。
短所.. 方向音痴。
- ④ まず自分が神様の愛を受け取っていることを忘れずに、そして、その愛をご利用者さん、ご家族に十分に分かち合ってください。



- ① 佐伯 香奈美 (事務員/事務部)
- ② 一日でも早く名前と顔を覚えて皆さんに尽くしていきたいです。
- ③ 長所.. 物怖じしない。
短所.. 朝が苦手。
- ④ 園内で過ごしやすいうように困っていることがあれば解決に導きたい。



- ① 玉邑 浩二 (介護福祉士/ひかり棟)
- ② 利用者さんが楽しく生活出来るよう頑張っていきたいです。
- ③ 長所.. 色々な事に興味を持つことです。
短所.. 考えすぎな所です。
- ④ 利用者さんが伝えたいことや、やりたいことを理解できるような関わりをしていきたいです。



- ① 杉田 知美 (調理師/栄養課)
- ② 利用者さんが私が作った食事で笑顔になれるように頑張りたいです。
- ③ 長所.. 常に周りの人の立場になって考えます。
短所.. 人見知りをします。
- ④ 食事を通して毎日健康で元気に生活出来るように取り組みたいです。

- ① 名前・職名・部門配置
- ② 久山療育園で働くことについての抱負
- ③ 長所・短所
- ④ 利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



- ① 橋本 元氣 (療育員/ひかり棟)
- ② 焦らずに頑張ります。
- ③ 長所.. 前向き(ポジティブ)です。
短所.. 忘れっぽいところです。
- ④ 利用者さんや家族の方が一番笑える職員として関わりたいです。



- ① 高橋 裕子 (看護師/めぐみ棟)
- ② 利用者さんが安心・安全に生活でき、日々の生活の中で笑顔を引き出せるように頑張ります。
- ③ 長所.. 体力がある。
短所.. 受け身などところがある。
- ④ 利用者さん、ご家族と信頼関係を築き、よりよい生活が保てるように支援していきたいです。



- ① 梅本 奈津子 (調理員/栄養士) / 栄養課)
- ② 利用者さんが食事を楽しみにしていただけるよう頑張ります。
- ③ 長所.. 責任感がある。
短所.. 心配性。
- ④ 利用者さんに喜んでいただける美味しい食事を作りたいと思います。



- ① 藤井 陽子 (看護師/通所)
- ② 自分自身楽しく笑顔で働ける様、利用者の方々に笑顔で接していきたいです。
- ③ 長所.. 短所.. 良くも悪くもマイペースです。
- ④ 安心して接することのできる存在になりたいです。



- ① 押谷 直樹 (看護師/通所)
- ② 利用者さんとご家族の方に笑顔と安心を提供できる様に頑張ります。
- ③ 長所.. おおらか。
短所.. あがり症。
- ④ 受容・傾聴・共感をもって関わりたいです。



藤田 英彦

今年は、内外共になんと
暗い年末年始でしょう。

このアドベントの時に、
日本バプテスト連盟理事会
から「平和を求める祈り」
という文書が届きました。
是非近隣、お友達を誘って、
真剣に祈り合いましょう。

新約聖書の第一頁第一章
12節に「イエス・キリスト
の誕生の次第はこうであつ
た」とありますが、「こうで
あつた」という語は、「・・・
(そのとき)・・・であつた
が、(今も)あり続けている」
、「エオリスト」と言うギリ
シヤ語特有の文法で表現さ
れています。解り易く言え
ば「2千年前のイエス・キ
リスト誕生の出来事は、今
日私たちのクリスマスの出
来事でもあつた」と言うこ
とです。

今から約2千年前、野宿
していた貧しい羊飼いたち
が輝く星に導かれて駆け付
け、遠くの国から星を頼り
にはるばるやって来た博士

たちが喜んだ時、ユダヤの王ヘ
ロデは新しい王の誕生を嫉妬し
て、二歳以下の男を皆殺しま
す。こうして予言者エレミヤに
よって言われたことが成就し、
「叫び泣く大いなる悲しみの声
がラマで聞こえた。ラケルはそ
の子らのためになげいた。子ら
がもはやいないので、慰められ
ることさえ願わなかつた」とあ
る通り、世は救い主の誕生を喜
んでいません。

紀元1世紀末の90年代に著
されたと言われるヨハネによる
福音書には「最後の場の晩餐」
の前、主イエスが、ペテロの足
を洗われたという記事があり、
「晩餐」の途中イスカリオテの
ユダが出て行った後、ヨハネは
「時は夜であつた」と表現して
います。原語で「エーン・デ・
ヌクス」とたつた3文字で表現
されていますが、なんと暗い言
葉でしょう。しかも、この言葉
も「エオリスト」です。

世界では、クリスマスをお祝つ
ている筈のエルサレムの病院
で、乳幼児を含む多くの無防
備の市民たちがイスラエル軍に
よって無差別に殺戮されたとい
うニュースにやりきれない怒り
の思いを禁じ難くしています。

詳細説明は省略しますが、戦
前ナチの「ホロコースト」を否
定した第2次世界大戦後、米英

等の戦勝国の、熱心で保守的キリス
ト教徒が、世界中のユダヤ人と呼び
掛け、先住民のパレスチナ人たちを
追い出し、現代の「神の民の国」イ
スラエルを創立、1947年の「国
連総会」で承認され、「共存、共榮」
が大きく謳われた記憶があります。
「イスラエルよ！『十戒』を思い起
こせ！」と叫びたい思いでいっぱい
です。また、米大国が強力にイスラ
エル、ウクライナを支援していると
マスコミが伝えていきます。軍備支援
で喜ぶのは『宗教心』ではなく、覇
権国家の軍需工場ではないでしょ
うか。

日本でも、1955年12月、「世
界平和。国産産業興伸」を首相政
策に掲げた石橋湛山が病氣退陣、
翌年、代理総理となる元A級戦犯
岸信介の最初の仕事で、旧紀元節
2月11日を「国民の祝日」とする
「自民党有志による国会提案」であ
り、「日米安保」強行採決であり、
『キリスト教』を唱える邪教「統一
教会」との親交、連帯は、孫の安倍
晋三に及び「選挙(裏)支援」実
質脱税である多額の「政策交付金」
不正等々敗戦後日本をだめにおか
しくした驚くべき愚行が暴露され
ている。国の内外共これを「カルト」
というべきです。

ヨハネによる福音書1章5節に
「光はやみの中に輝いている。そし
て、やみはこれに勝たなかつた」と
言い切ります。

ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

今年はずかしい冬の始まりでした
が、クリスマスが近づくに従って
本格的な冬の到来を迎えました。
コロナ以降、他者への関心が薄れ、
募金の金額は減少し、チラシすら
受け取ってもらえない状況が続い
ています。そういう状況を少しでも
も改善しようと、私たちは年末の
街頭募金に備えて横断幕を作り替
え、配布するチラシも新しくする
などの準備をしました。

しかし、年末街頭募金の初日は
降雪で中止となりました。寒さの
中、たくさんの方が来てくれ
たのに残念でした。2日目以降は、
下記の通りです。

さて、最終日のことを書きます。
私たちが現地に着いた時には、い
つもの場所には既に2組の団体が
いて、私たちが入る余地はありま
せんでした。しかし、しばらくし
て小さな雨が降り出すと全員がい
なくなり、私たちは難なくその場
所に移動できたのです。以前にも
あつたのですが、同じボランティア
アでも、そこに懸ける気持ちが一
然違うのです。そして、私たちは
小雨が降り続く中を最後まで募金
を続けたのでした。

「小雨降る 募金の列や」

クリスマス

(重症児者と共に生きる
「ミットレーベン・ネットワーク」

会長 伊原幹治

2023年日時	参加者数	教会・団体	募金額	備考
12/21(木)				降雪で中止
12/22(金)	35人	7教会	103,791円	
12/23(土)	17人	7教会	46,565円	
12/24(日)	19人	職員8人、父母10人	43,075円	
計	71人		193,431円	12月24日現在



ご協力ありがとうございました

(2023年9月1日〜11月30日) 敬称略

【法人】

秋永侑美、後山敦子、飯田節子、大場奈緒子、甲斐丈士、(株)アンパサンド、加來徳子、古池節子、志満秀武、五斗美代子、堺太郎、下山由美枝、白形和子、第一保険(株)、高島克代、つくしんぼうの会、土地家屋調査士法人エビス、仲田京子、奈良崎洋子、日本バプテスト大阪教会、野田紘美、久山療育園保護者会、久山療育園手作品売上、平川成、福岡聖書キリスト教会、福田眞治、福田靖、藤永嘉孝、船津丸泰、宮崎信義、村津俊博、室蘭バプテストキリスト教会、銘茶かおり園、山口正夫、横溝玲子

【重症者ホーム】

自動販売機売上献金、重症者ホームひさやま家族会、中島乃婦子、久山療育園来久の会、久山療育園献金箱 (以上81,902円)

【施設】

一般献金 岩永知秋、瓜生悦子、大原信幸、岡本好枝、川名幸重、木元克治、城里生英夫、古賀和男、古賀成、後藤香織、新藤賢恵・佐知子、田上洋子、立石有梨佳、田中節子・由美、手嶋真由美、花原章二、原尚美、久山療育園来久の会、松尾貴光・勇一、間部和子、宮古聖ヤコブ教会、宮崎信義、森永清治、梁瀬ゆかり、山口吉昭、吉見末男 (以上648,201円)

献品

限部有理(消毒液他)、栗ヶ沢バプテスト教会(石鹸他)、小島恵子(食事用エプロン)、後藤和子(手作りバッグ)、西南学院中学校・高等学校校母の会

(タオルエプロン)、高倉博子(食事前エプロン)、高瀬孝介(靴下)、高瀬寛(靴下)、特定非営利活動法人大隅シオン会(食事前エプロン)、仲村文紀(もち米)、名島ガラス店(水墨画)、二宮章年(タオル)、原田太一(冷蔵庫他)、平川成(手作品)、福岡県理容生活衛生同業組合(タオル)、森清司(タリスマスイルミネーション)、安井洋子(タオルエプロン)、安河内清美(苺ジャム) (以上0円)

献金申込先

- 1.《郵送》 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会 〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869 久山療育園重症児者医療療育センター内 ☎(092) 976-2281(代)
2.《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】 名義:バプテスト心身障害者を守る会
3.《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888 名義:バプテスト心身障害児(者)を守る会 理事長 宮崎信義
4.《ホームページ》当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いてください。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますのでご利用ください。個人、会社共に免税の対象になります。 メール: hisayama@hisayama-smid.jp

クレジット献金はこちら→



「ロジテム九州さんより献品」



今年もロジテム九州さんより「利用者の方のために何か」とお話しがあり。各病棟、通所で必要な物を検討させていただき、パルスオキシメーター(指先の皮膚を通して動脈血酸素飽和度(SpO2)と脈拍数を測定するための装置)と点滴台を購入させていただきました。12月20日(水)ロジテム九州さんよりサントさんとトナカイさんが来園され、贈呈式がありました。いつもありがとうございます。(看護部長 吉本法生)

メモ帳

【10月】

- ▽4日 秋季新人職員オリエンテーション ▽11日 災害対策訓練(停電) ▽13〜15日 認定看護師研修会
▽15日 祭りひさやま(グループホーム参加) ▽16日 経営会議 ▽17日 社会福祉法人等指導監査 ▽18日〜19日 秋のつどい(病棟) ▽24日 久山町社協情報交換会
▽25日〜31日 通所保護者懇談会 ▽26日 福岡県北部地区在宅重症児者連携会議・コア会議(3回目)
▽28日 ボランティア講習会 ▽29日 東久原地区運動会(グループホーム参加)

【11月】

- ▽1日〜2日 消防設備点検 建築物定期調査
▽10日 誕生会 ▽16日 来久の会リーダー懇談会
▽16日〜17日 第44回日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会 ▽20日 経営会議 ▽21日 福岡県北部地区在宅重症児者連携会議 ▽24日 第3回理事会
▽29日 音楽会(スマイリング・ホスピタル・ジャパン)(SHJ)によるアルパ演奏会)

【12月】

- ▽1日 誕生会 ▽4日 新人職員交流会 ▽7日 第55回福岡県重症心身障害施設協議会 ▽13日 入所クリスマス ▽14日 園クリスマス礼拝 ▽15日〜21日 通所クリスマス ▽18日 福岡県病院立入検査 ▽20日 久山町福祉基本計画策定委員会(2回目) ▽21日 経営会議
▽22日 福岡県北部地区在宅重症児者連携会議・コア会議(4回目・Zoom)

職員の異動

- (2023/10/1〜12/31)
【採用】 12/11付 ▽梅本奈津子(調理員・栄養士)
【退職】 10/31付 ▽木下 結(言語聴覚士)
11/30付 ▽河野 敦美(保育士)

ボランティアだより

「ボランティア講習会の報告」

10月28日(土)ボランティア講習会を3年ぶりに開催しました。当日はホームページやポスター、新聞記事を見られた10名の方々が参加されました。



園の概要説明から始まり、現役ボランティアさんへのインタビュ形式によるお話しに加え、施設内見学にボランティア体験をしていただきました。



現役ボランティアさんによるお話では、ボランティアに対する想いや、ボランティア活動内容を中心に話をさせていただき、相互の意見交換も活発に行うことで、講習会参加者の皆様へボランティアについて十分にお伝え出来たのではないかと感じています。

私自身もこのように現役ボランティアさんのお話を聴く機会は少ないことから、とても良い経験となりました。今後は現場職員にも話を聴ける機会を設けていくことが出来ればと感じました。

お昼からの2時間という短い時間でしたが、来年度につながる良い機会となりました。

また、ボランティア講習会終了後に2名の方より新規登録の連絡がありました。出来ることを取り組んできた事がこのボランティアの新規登録に繋がったものと受け止めています。

今後も、このボランティア講習会を通して、久山療育園をより外部の方に知っていただく機会に繋げていければと考えています。

(ボランティア委員長 島津洋昭)



歩 行 器

今年秋口に真冬の寒さが来たり、12月はいつになく暖かな日があったり、急に冷え込んだり、気候の変動が目まぐるしく感じる日々でした。昨年の12月は、新型コロナウイルスによるクラスター発生など、対応に追われておりましたが、今年はいよいよ比較的穏やかに過ごせています。

先日、博多駅へ出かける機会があり、駅前を歩いてみました。コロナ対策は無いのかのとき賑わいでした。外国の方の姿も以前の様に多くあり、街中がクリスマスネオンに輝き賑やかな様子を呈していました。一方で、病院や施設など、今なお感染防止体制を余儀なくされているのも現実です。会いたい人に会いたい時に会える社会が一日も早く戻ってくるのをただ願うばかりです。

久山療育園のクリスマス会は、昨年同様に縮小バージョンで、限られた参加者の中で守られました。喜びを共に分かち合う良い機会なのですが、来年こそは制限が緩和されていくことを願っています。

キリスト教自体が起源ではないようですが、イギリスやアメリカなどではクリスマスの時期に聖

歌隊が街角や施設等で、讃美歌を歌い共にクリスマスの誕生を喜び、祝福を願う「キャロリング」という習慣があります。久山療育園では今年も夕食前のひと時、各病棟を職員有志9名によるキャロリングに、皆さん耳を傾けて頂き、クリスマスのお祝いを行うことができました。2023年の恵みに感謝し、また来る年の幸せを願いつつ、「きよしこの夜」「諸人こそりて」「荒野のはてに」「牧人ひつじを」を讃美し、共に喜びの時を過ごすことができました。

(T・N)

【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。
「興味があるけど、どんなことするのか心配…」
「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけるようになっています。
お気軽にご利用ください。
bora@hisayama-smid.jp

重症心身障害施設
久山療育園ホームページ
<http://hisayama-smid.jp/>



求人情報

